

# 背振山系全山縦走

【報告者】N井

【日時】2019年3月23日、24日

【天候】雨 → 曇 → 雪 → みぞれ → 快晴

【参加者】I丸 (CL)、みっちー、N井

## 《コースタイム》

3月23日(土)

06552原田駅出発→0810基山→0935柿の原峠→1024大峠→1130九千部山→1249七曲峠→1331坂本峠→1505蛤岳→1650脊振山(15分休憩、自動販売機あり)→1757椎原峠→1846獵師岩山→1903小爪峠→2006金山→2107城の山→2121三瀬山→2145三瀬峠(大休止30分)→2430井原山→2604雷山→2630雷山避難小屋(仮眠)

3月24日(日)

0445 出発→0542 長野峠→0800 羽金山→1027 荒川峠→1151 女岳→1316 浮嶽→1433 白木峠→1514 十坊山→1630 まむしの湯

## 《 報 告 》

山行の前夜、I丸さんに「夕飯はお湯沸かして何かつくる？」って電話すると、「私はそんな余裕はないわよ！N井さんがつくるならどうぞ～」って答えに驚く。初参加の私は、この時はまだ、背振全山の厳しさを分かっていない。

朝4時に起きて特急きらめき1号に乗車し、乗り継いで原田駅6:44分下車。雨がポツポツと降る中を、天気予報に毒づきながら基山を越えて大峠まで約3時間半歩く。車道が長くつらい。分岐には注意が必要。

九千部山、蛤岳、脊振山と高度を一気に上げていくが、まだまだ前半戦なので歩調も軽い。脊振山では気温はかなり下がってきて、自販機で温かい紅茶花伝とポカリ500ccを購入した。長い山行の途中に、自販機で温かい飲み物が飲めるのは本当にありがたい。小休止したあと、仮眠予定地の三瀬峠を目指す。

椎原峠を越えたころから暗くなり、ヘッドランプを付けて歩く。梟の鳴き声が聞こえてくる。この頃から、一時やんでいた雨が再び降り始め、雪に変わってきた。金山を越えるあたりからは横なぐりの雪となり、ゴージャスと風も強い。何度か木の根に足を滑らせながら三瀬峠にやっと辿り着く。着いた時には雪はやんでいた。仮眠せず30分ほどの大休止。背振全山の厳しさが寒さと共に凍みてくる。

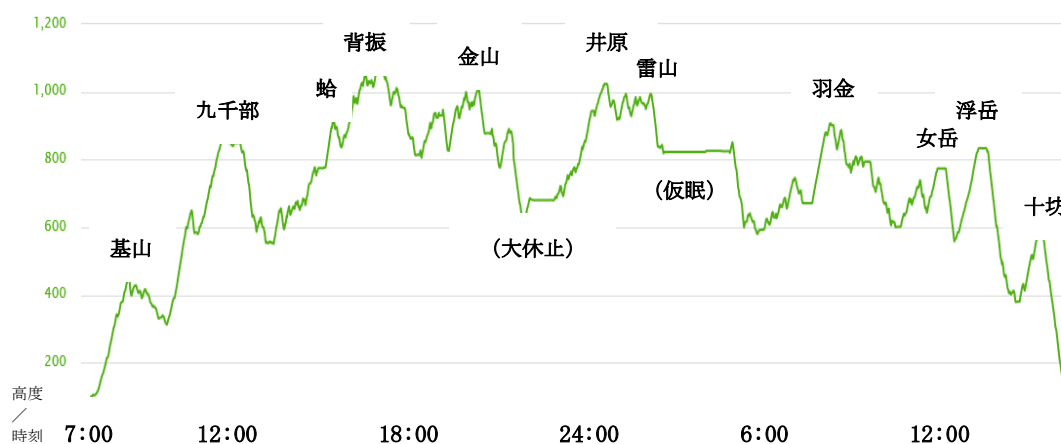
大休止で少し元気を取り戻し、井原山へ。井原山山頂からの福岡の夜景は素晴らしい。仮眠をとらず一気に歩こうと目論んだが、雷山に向かう途中から急激に睡魔に襲われ、雷山避難小屋で仮眠をとることにする。2年前と同様に今回も少し探すことになる。小屋は林の中にあって見えないので、まず、雷山から下った鞍部にある避難小屋の道標を探した方がよい。鉄の扉をギーッと大きな音をたてて開けると、避難小屋の中は広く、板の間&銀マットで2時間ほど仮眠した。

寒くて仮眠用に着たダウンのまま長野峠までの長く急な道を下る。羽金山の日本標準時電波送信施設が見えるが、地上高200mもあるので羽金山が近くに見えて始末が悪い。小さなアップダウンを繰り返しながら約4時間かけて羽金山を超えて荒川峠へ。

女岳を越え浮嶽へは、みっちーさんが事前調査していた登山道を使う。車道を長く使い、浮嶽ピークへの急登をカットした登山道で疲れた体にやさしい。このころから、長い縦走の疲れからどっと足が重くなってくる。まさに一歩一歩この山行を噛みしめるような歩きだ。山頂神社で手を合わせ小休止。浮嶽からの下りも長く、個人的にはここが一番きつかった。

快晴の十坊山には家族連れ登山者もいて和やかだ。足の痛みも不思議と感じなくなり、達成感に浸る。まむし温泉で乾杯して、小倉までの長い帰路についた。

最後に、毎年、この企画をしてきたI丸リーダーと、ずっとトップを歩いて頂いたみっちーさんに感謝いたします。



活動時間	33 時間 35 分
活動距離活動距離	72.47km
累積標高上り/下り	6,816m / 6,870m

